

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援いんくる			
○保護者評価実施期間	2025年9月15日 ~ 2025年10月15日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	76人	(回答者数)	41人	
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ~ 2025年10月15日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	9人	(回答者数)	9人	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月15日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所の職員は、障害児支援に関して10年以上の経験を有するとともに、保育士、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、社会福祉士等、いずれかの国家資格を有しており、障害児支援に関する熱意や専門性、経験を有している。	・事業所の理念である「地域で生き生きと生活する子ども」の実現をめざすために、多様な専門性を持つ職員一人ひとりが協力して支援に当たっている。 ・個別支援計画の作成や支援に当たっては、すべての職員が話し合いに参加し、共通理解をもって支援をしている。	・意識的に行っている取り組みを継続していく。
2	・児童発達支援事業所と同一敷地内に、保育所等訪問支援事業所、相談支援事業所（障害児、特定）を設置しており、「相談支援」から「発達支援」、「移行支援」や「地域支援」の各支援がシームレスに行いややすい環境にある。	・児童や家族の想いを第一に考え、児童等のニーズに応じた支援を行うよう努めている。 ・障害を含め、さまざまな個性を持つ人が、地域で共に生活をしていくことが、望ましいことと考えてあり、児童等が望むインクルージョン理念に基づく地域生活支援を行っていく。	・意識的に行っている取り組みを継続していく。
3	・事業所は山口市の中心部に立地し、併行利用先の保育施設等へのアクセスが容易であり、連携を取りやすい環境にある。	・当事業所は2024年4月開設の事業所であるため、地域の保育施設等の認知が十分ではないため、当事業所の方から出向いて連携をとる機会を多く設けるようにしている。	・意識的に行っている取り組みを継続していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用希望が多く、ニーズに応えきれなかったり、待機状態の児童が多く存在する。	・山口市内の児童発達支援事業所の事業所数や総定員は増加しているが、特定の事業所に利用希望が集中していることが要因の一つとして考えられる。 ・神経発達症などの発達障害の周知が進み、児童発達支援事業のニーズが全国的に高くなっている。	・事業所の面積や設備面から等から定員を増やすことは困難なので、行政当局や地域自立支援協議会など協議を行う。 ・「保育所等訪問支援事業」や「巡回支援専門員整備事業」などの訪問型の事業を活用し、待機児童が利用している保育機関との連携や支援等を検討する。
2	・定員10名の児童発達支援事業所として、十分な広さを確保しているが、運動遊びや水遊びなど、活動内容によっては、スペースが十分ではない感じられる。	・面積は十分であるが、部屋数が少ない、収納や仕切りが少ない、事業所が2階に設置してあるなど、活動に応じて療育環境を変えることが難しい。	・近くに公園、寺社、図書館などの施設がたくさんあるという立地条件を生かして、スペースの不足を補う工夫を行いたい
3	・避難訓練の実施、施設設備や周辺環境等の安全点検等を実施しているが、保護者の方への周知が十分ではない。	・事業所内の掲示や毎月配布する療育予定表、事業所ホームページなどを通して避難訓練等の周知を図っているが、文書ベースでの案内なので充分に周知できていない。	・文書ベースでの案内に加えて、送迎時や連絡帳等を通して、避難訓練時の児童の様子を伝える。 ・保護者の方が参加する訓練を実施したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こども発達支援いんくる	公表日 2025年12月26日					
		利用児童数			76人	回収数	49人
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	12	1	3	・室内は広くはないですが、戸外活動を多く取り入れているので十分だと思います。 ・春と秋は散歩が多く楽しそうですが、夏や冬の活動が、広いスペースがないので大変だろうなと思います。	・支援に必要な面積は確保できていると考えますが、運動遊びなど、活動によつては狭く感じられることがあるかも知れません公園など近隣の社会資源を活用して対応したいと考えています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	42	1	0	6		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思います。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	38	10	0	1	・階段に手すりがあるといいと思う ・「入ってはいけない」「開けてはいけない」がまだ理解できないので、収納スペースがもう少しあるといいと思います。	・階段の手すりはついていませんが、階段に付属の転落防止用の格子を持っていただきて昇降していただくよう、ご協力ををお願いいたします。 ・収納スペースが限られており、ご迷惑をおかけしています。2025年12月に建具屋さんにお願いし、収納用の棚を4か所設置しました。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	44	4	0	0	・よく考えられた空間だと思います。	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	49	0	0	0	・子どもの得手、不得手に合わせた支援内容になっている。 ・活動が同じでも内容は違っていて、毎回工夫して支援していただいていることに感謝しています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	44	0	0	5	・事業所の支援プログラムをよく理解していないためわからないとしました。申し訳ありません。	・支援プログラムはホームページに掲載しています。契約やモニタリングの機会などを通して丁寧に説明をしたいと思います。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	48	0	0	1		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	45	0	0	4		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	48	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	45	1	0	3	・活動プログラムを理解していないため、わからないとしました。	・毎月お配りしている活動予定表をご確認ください、活動予定表はホームページや事業所内でも掲示しています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18	8	14	9		・ほとんどのお子さんが地域の保育機関を利用していますので、事業所として交流の機会を設けていません、公園やイベント等で地域のお子さんと活動する機会があります。
支援の充実度	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	48	0	0	1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	49	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	12	3	15	・子どもの成長と共に、ステップアップの話もしていただけるので、わかりやすく励みになります。	・先輩の保護者（ペアレンツメンター）をお招きし、座談会や相談会などを年数回実施しています。研修会等の案内は、事業所内に掲示していますので、送迎の際などご確認ください。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	47	2	0	0	・話をよく聞いてもらえ、一緒に考えてもらいます。	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	46	2	0	1	・子どもが苦手なことを教えてほしい。 ・先生方に気軽に相談できるので、悩みになる前に解決方法が分かり感謝です。	・その日の療育の内容やお子さんの様子は、送迎の際に詳しくお伝えしています。苦手なことへの対応については、お子様一人ひとりの個別支援計画で、保護者の方と一緒に考えることにしています。ご不明の点がありましたら遠慮なくお申し出ください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	49	0	0	0	・偏食やトイレに共感して子どものペースに合わせて支援していただけるので感謝しています。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	8	12	24	・休日に保護者同士の交流機会があれば参加したい。 ・まだ機会がありません。 ・父母の会や保護者会がなくても、話ができる機会はあるので、わざわざ設ける必要はないと思います。 ・親子通園で妹も一緒に迷惑をおかけしていますが、快く受け入れていただいています。	・定員10名の事業所で、通園日数も月当たり1日から8日までで、保護者会等は組織されにくいと考えますが、保護者の方同士で集まりたいなどのご要望がありましたら対応をさせていただきます。 ・きょうだい児の方を対象としたイベントは実施していませんが、送迎の機会などで交流されることがあります。また、親子通園クラスで学校の長期休みの際などで交流の機会を設けることがあります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	46	0	0	3		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	47	0	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	25	5	3	16	・SNS等で事業所での様子を発信していると感謝している。	・事業所ホームページや掲示等で情報の公表を行っていますので、併せてご確認いただければ幸いです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	39	2	2	6	・室内に誕生日の子どもの顔写真の掲示があった。	・お子様の誕生日に事業所内で誕生日会を行い、誕生カードの紹介等を行っていますが、誕生日会が終わり次第、撤収させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	7	3	23	・説明を受けましたが、訓練が行われていないか把握していないため、わからないと回答しました。	・各種マニュアル類は掲示等を行っていますので、ご確認いただければ幸いです。
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	4	6	27		各種訓練は定期的に行っており、訓練の予定等については、毎月お配りしている予定表に記載していますので、ご確認ください。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34	3	0	12		・安全計画や訓練等は掲示していますのでご確認ください。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	27	3	0	19		・損害保険の加入及び事故対応マニュアルを策定し、緊急時の備えを行っています。マニュアルの概要は掲示をしていますのでご確認ください。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	49				・ここがなかったらと考えると恐ろしいです。	
満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	49				・大好きでたまらないようです。 ・毎週先生や友達に会えることを楽しみに待っています。 ・心の落ち着ける場所になっている思います。 ・毎回、通うのを楽しみにしています。 ・毎回楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	48	1			・子どもの様子やごとばなどをちらさず伝えていただき、手厚い環境であると思います。 ・よくしていただいています。 ・子どもの帰りたがらない様子から、子どもにとって楽しくよい時間を過ごせているんだなと感じています。 ・いつも暖かく丁寧な対応をしてくださり、親子ともども助けていただき大変感謝しています。 ・感謝しかないです。話を聞いてもらえて一緒に考えてくれる、、、親にとっても心の安定に助かっています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こども発達支援いんくる
------	-------------

公表日 2025年12月26日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		外遊びや水遊び等、活動の関係でスペースが不足すると感じられる場合は、山口市の中心部に立地しているという特性を生かし、周辺の社会資源を活用するようしている。 ・発達支援室の収納スペースが限られているため、今年度収納棚を複数設置した。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・今年度非常勤職員の増員を行い、ゆとりある職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		・発達支援室が二階にあるため、危険だと思うときは、職員が車まで送迎するようにして安全確保を心掛けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・遊びや活動の空間を分け、安全に配慮や安心して過ごすことができるよう工夫している。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		発達支援室に加え、運動遊びの部屋、個別対応の部屋を設け、児童一人ひとりの状況に応じて対応できるように工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		・全職員が参加することが難しい時があるため、毎朝のミーティング等、できるだけ職員がそろった場面を活用して話し合いを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・アンケートでいただいた意見を踏まえて今後に生かしていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		・今後、第三者評価の受審等、外部評価の実施を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・研修の案内が周知され、積極的に参加している。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		・ホームページや事業所内の掲示で公表している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		・標準化されたアセスメントツールを補助的に活用しながら、多角的な視点によりアセスメントを行い、ISPを作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		ISPの作成に当たっては、児童発達支援管理責任者に加え、保育士や言語聴覚士、公認心理師、社会福祉士などすべてのスタッフが参画し共通理解の上、ISPの作成等を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		ISPの実施に当たっては、児童発達支援管理責任者や保育士、言語聴覚士や公認心理師、社会福祉士などすべてのスタッフが共有し、ISPに沿った支援を行っている。、	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		・行動観察や保護者等からの情報に加え、標準化されたアセスメントツールを補助的に活用し、多角的な視点によりアセスメントを行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		・当事業所の支援プログラムにおいて5領域のねらいや、支援内容等を定めており、一人ひとりの児童の実態に即して具体的な支援内容を定めている。	

× 援 の 提 供	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		・四季折々の活動を取り入れ、活動内容が固定化しないよう工夫している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		・朝のミーティングは、支援開始まで約1.5時間の時間が設けられるため、ミーティング時に打合せ等を行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		・勤務時間等の関係で支援終了後に全員が揃っての振り返りを行うことが難しい場合には、朝のミーティングや支援の合間の時間を活用して振り返りや共有等を行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・ノートPCを職員一人ひとりに支給し、業務の効率化を図っている。日々の支援の記録や児童の状況等はNAS上の共有フォルダに保存し、各職員が記録の確認や支援内容の検証や改善につなげられる体制を整えている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>			
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>			
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>		・併行通園を行っている保育機関を訪問し、児童の様子や支援内容について共有する機会を作っている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	<input type="radio"/>			
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		・児童発達支援センターが主催する研修に積極的に参加しているが、スーパービジョンや助言等は受けていない。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>			
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>			
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		・親子通園のグループで、先輩ママやペアレンツメンターさんとのお話を開催している。研修会や講演会の情報も掲示等により、適宜提供している。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>		・送迎を行っていないため、登園日は、保護者等と話す機会がある。相談対応は適宜行っているが、就学に関する相談等、相談内容によっては、日を改めて対応を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>		・保護者の勉強会を兼ねて、先輩保護者を講師に招き、話し合いの場を設けている。多くの参加があり、保護者同士の交流の場、学びの場となっている ・きょうだい児が交流する機会は設けていないが、学校や幼稚園などの長期休み期間の送迎時に交流する機会がある。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>		・送迎を行っていないため、登園日は、保護者等と話す機会がある。相談対応は適宜行っているが、就学に関する相談等、相談内容によっては、日を改めて対応を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>		・利用者に対してはSNSを活用した情報発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>		・ことば以外の手段でのコミュニケーションやコミュニケーションエイドなどの補助代替コミュニケーションも積極的に活用して、コミュニケーションを図っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>		・地域のお店に買い物に行ったり、公園や地域交流センター、お寺に遊びに行く機会を設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>		・インテーク時の面談等で確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>		・給食の提供を行っていない。おやつについては事前に利用児のアレルギーを把握し、保護者に確認の上、除去されているものを提供している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>			

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止のポイントは児童の状況に応じたより良い支援を行うことに尽きるとの視点から取り組みを行っている。 ・外部研修にも参加の機会を多く持ち、支援技術の向上等を図っている。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束については重大な権利侵害ととらえており、原則的に行いません。 	